いずみさの昔と今 第362回

「政基公旅引付」にみる雪

文亀元（1501）年から永正元（1504）年に日根荘で過ごした九条政基の日記「政基公旅引付」は、当時の村の様子が分かる数少ない文献です。今回はその中から「雪」をテーマに見ていきます。

まずは降雪の状況です。文亀元年は初雪が11月16日で、12月19日条が記述のある中では最後の雪です。今の暦では12月26日～1月27日に相当します。文亀2（1502）年は11月17日条から翌年の正月3日条で、今の暦では12月5日～2月6日に相当します。文亀3（1503）年は11月12日から翌年の3月1日で、今の暦では11月30日～3月17日に相当します。永正元年は11月16日（今の暦では12月22日）の初雪のみ記述があります。積雪量についてはあまり記載はありませんが、その中で最も積もったのは、文亀2年11月20日の「六七寸（約20㎝）」です。

当時雪が降ることは季節の巡りが順調でめでたいことと考えられていました。文亀3年正月2日条では雪が降ったことを「豊年の佳瑞」、つまり作物がたくさん取れる年の兆候と記しています。さらに貴族社会では初雪が降った日が重要視されていました。政基も文亀元年11月16日条と文亀3年11月12日条で初雪が降ったことに言及しており、初雪への意識がうかがえます。

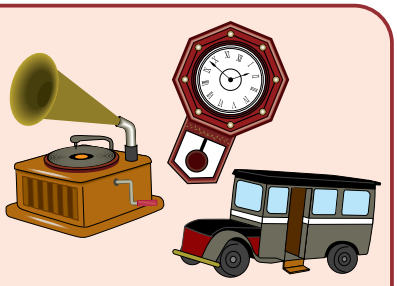
雪は鑑賞の対象でもありました。例えば文亀2年11月20日条では、雪が降った山里の景色を趣あるものとしています。他にも雪が降る様子を花に見立てて「雪花」という語を用い、「雪花飛散」「雪花風乱」「雪花飛乱」と舞い散る様子を表現しています。こうした表現は他の人も用いており、政基オリジナルのものではありませんが、ここから雪が舞うさまを見る政基の様子が目に浮かびます。

また政基は鑑賞した雪を題材に和歌を二首詠んでいます。一つは文亀3年11月17日に詠んだ「つもりぬるこの山かけを見てそしる宮こもさそな雪のふる郷」という歌で、「雪が積もったこの山の姿を見ると、故郷である京都でもさぞ雪が降っていることだろうと偲ばれる」という意味です。もう一つは文亀4年正月の「山里の春やみやこのはるならぬこぞ見し雪はもとのまゝにて」という歌で、「入山田村の山里にも春がやってきたがこれは都の春とは違う、去年に見た雪は都のものと同じなのに」という意味です。これらから政基は雪を見ては故郷である京都を思い出していたことが読み取れます。

一方で雪が交通を遮断し困ったケースもあります。文亀3年の正月2日に犬鳴山七宝瀧寺で年始の仏事である修正会が開催された際、入山田村から根来寺のあたりまでが大雪になってしまいます。そのため普段根来寺にいた七宝瀧寺の別当真海はこの修正会に参加することができませんでした。現在でも大雪で道路が通行止めになるケースは見受けられますが、道の整備が今ほどは行き届いていない当時では、より深刻な問題になったと考えられます。

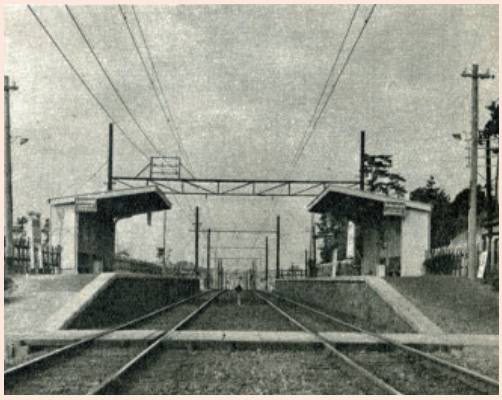
レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日　月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料　無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ



泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

⑳駅シリーズ JR 東佐野駅



▶昭和25年頃の東佐野駅。昭和1914年に泉ヶ丘駅として開業し、昭和に東佐野駅と改名しました。

▼昭和63年の東佐野駅。駅舎は建設当初から変わっていません。

▲現在の東佐野駅。駅前にはロータリーや公衆トイレができています。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ（https://adeac.jp/izumisano-city/top/）」でも公開中！！